

瀬戸内Finder 8月人気記事TOP5

- 地元ライターによる
瀬戸内情報発信中！
<http://setouchiFinder.com>
- #1  山口県・周防大島で「TAKE OFF(テイクオフ)」!
山口県
- #2  その美しさ世界レベル！山口県の海・山・島 超絶景マトメ8選！
山口県
- #3  愛媛の秘境探訪！幾千年もの月日をかけて作られた水の秘境
愛媛県
- #4  1日1組限定のプライベート・アイランド／KUJIRA-JIMA
岡山県
- #5  敷地内一面に広がる苔の絨毯と美味しい空気に癒やされる／ギャラリー喫茶 こけむしろ(愛媛県西予市)
愛媛県

メディア掲載実績

■otomoへの観光ファンド
8月26日 中国新聞、日本経済新聞
旅行新聞、トラベルジャーナル

せとうちDMOメンバーズ：「瀬戸内アカデミー」について

「瀬戸内アカデミー」は、せとうちDMOが運営する会員制サービス『せとうちDMOメンバーズ』の会員向けメニューの1つです。

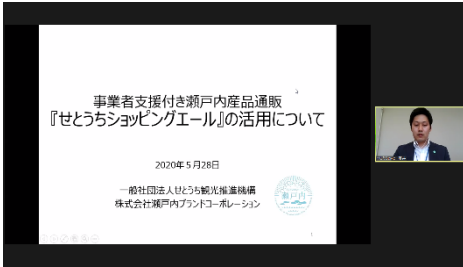
瀬戸内域内で観光関連ビジネスを営む際に役立つ知識・スキル・ノウハウを身に付けていただくことや、地域に対する理解を深めていただくことを目的としているプログラムです。

従来は、各地（昨年度開催：岡山・広島・香川・愛媛）で開催しておりましたが、新型コロナウイルスの状況の中、今年度はこの瀬戸内アカデミーをどこからでもご参加いただけるようにオンラインにて開催しています。

Zoomを活用したオンラインセミナーという形でこれまでに5回開催しており、着実に視聴数も増えてきました。講座内容も観光関連事業として必須のコロナ衛生対策やウィズコロナ時での観光ビジネスの成功体験、チャレンジ事例など今このタイミングで学びたい講座を開催しています。

本瀬戸内アカデミーで今後開催してほしいセミナー内容などご希望がありましたらせとうちDMOまでどしどしご意見をお寄せください。

ニューノーマルの取り組みとして、せとうちDMOメンバーズでは引き続きオンラインにて瀬戸内アカデミーを開催してまいります。



◆ 瀬戸内アカデミー 2020年度開催内容（実績と今後の予定）

開催日	講座名	講師
05/28	事業者支援付き産品通販サイト「せとうちショッピングエール」の活用方法	せとうちDMO 友井
06/09	「あきらめていませんか？雇用調整助成金」	社会保険労務士 松本様
07/30	新型コロナウイルス感染症によるマーケット変化と今後の衛生対策	サクラクオリティ社 北村様
08/04	体験事業者が考えるコロナ禍での生き残りとの今後の動き方	mint社 石飛様
08/28	面白いからやっちゃいな、で地方バス会社がオンラインツアー始めました！	琴平バス社 山本様
9月	【予定】Go To トラベル：地域共通クーポン制度説明会	Go Toトラベル事務局様
9月	【予定】空港内販売店の売れ筋情報と全国のお土産販売の消費傾向について	羽田未来総合研究所様
未定	【予定】せとうちDMOメンバーズ「ビジネスマッチング」成功事例	未定
未定	【予定】コロナウイルス感染症対策	未定
未定	【予定】地域産品のブランディング成功事例	未定
未定	【予定】瀬戸内エリア内事業者の取り組み事例	未定

大和重工株式会社×せとうち古民家ステイズHiroshima 五右衛門風呂体験

せとうち古民家ステイズHiroshimaは、DMOメンバーズの会員である大和重工株式会社（広島県広島市安佐北区可部1丁目21-23）との共同企画として、五右衛門風呂体験を提供します。2020年9月1日から11月30日までの3ヶ月間、せとうち古民家ステイズHiroshima『不老仙』及び『こごこ森』にご宿泊いただいたお客様は、大和重工株式会社が企画・製造する五右衛門風呂『湯牧民（ゆうぼくみん）』を無料でご利用いただけます。

お客様ご自身で、薪を使って、お風呂を焚くという、現代ではなかなか味わえない貴重な機会となっており、人里離れた自然の中に入るお風呂は、心も体もリフレッシュし、思い出に残る体験になること間違いなし。ぜひこの機会にせとうち古民家ステイズHiroshimaへのご宿泊および五右衛門風呂体験をお楽しみ下さい。

また、今後は、焚き火や釜ご飯など火を使った調理を通して、安全な火のおこし方や扱い方を学ぶことができる子供たちへの『火育』プログラムの企画も予定しております。

せとうち古民家ステイズでは、今後もDMOメンバーズ会員様との連携を深めながら、観光客満足度と地域貢献の両立を目指し、活動を続けて参ります。



「湯牧民」場所を選ばず、どこでも気軽に簡単にお風呂が楽しめます。大自然の中で、体の中から外から「お湯」を楽しむ心と、水や牧草を求めて平原を移動する「遊牧民」の自由さをイメージして名づけられています。耐久性にも優れ、自然に対してもローインパクトな製品です。



不老仙 お風呂に入りながら美しい棚田の景色を眺めることができます。



こごこ森 小川の音を聞きながら、森のふもとで入るお風呂はアウトドア感を満喫できます。



瀬戸内アカデミー:オンラインで7/30開催しました 「Withコロナ時代に求められる観光事業者の安全・安心とは？」

今年度第3回目となる瀬戸内アカデミーでは、宿泊施設だけでなく、お客様と対面で商売される様々な業種の事業者を対象とした「Withコロナ時代に求められる観光事業者の安全・安心とは？」をテーマに開催しました。

ニューノーマルで変わる消費者ニーズをどうくみ取るのか。消費者から選んでもらえる利用施設を目指して、徹底防御が求められる感染経路の防御策（飛沫感染・接触感染）や消毒薬剤エタノール及び界面活性剤の効果・検証などを北村講師が、プロの目線から感染対策のポイントについて解説し、この機会に再度認識を深める培とさせていただきました。

- ◆ 講座名：「Withコロナ時代に求められる観光事業者の安全・安心とは？」
- ◆ 日時： 2020年7月30日（火）午後2時～3時
- ◆ テーマ：）「新型コロナウイルス対応ガイドライン「以下「ガイドライン」と言う）について ～宿泊施設を例に～」
- ◆ 講師： 北村 剛史（きたむら・たけし）氏
 (株)日本ホテルアプレイザル 代表取締役
 (株)サクラクオリティマネジメント 代表取締役
 (一社)観光品質認証協会 統括理事

従来の瀬戸内アカデミーは各地で開催されていましたが、今後はオンラインを積極的に活用し、せとうちDMOメンバーズの会員さまに役立つセミナーを開催していく予定です。



NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町オープン

古き良き街並みが美しい愛媛県大洲市。

伊予の小京都と呼ばれる大洲市は、市の中央部を清流「肱川」が流れ、美しい田園風景や山並み、中心部の城下町、大洲城などの歴史的資源など、情緒あふれる名所の数々が今も息づいています。



大洲城(愛媛県大洲市大洲903)



おはなはん通り(大洲市内)

市街地の東端に、「おはなはん通り」があります。名前は昭和41年のNHK朝のテレビドラマ「おはなはん」のロケが行われたことから由来しています。

江戸時代の町割と家並等が残されており、当時の庶民の生活の一端を知ることができます。北側の蔵並びは商屋のもので、南側は武家屋敷でした。

(大洲市HPより一部抜粋)

中でも、大洲市には城下町、まちのアイコンである大洲城、明治期の名建築臥龍山荘をはじめとする歴史資源が豊富に点在していることから「伊予の小京都」と呼ばれています。しかし、近年は城下町を形成する古民家などの取り壊しが進んでおり、「町家・古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくり」が急務となっていることから、城下町に分散する町屋や古民家を改修し、まち全体がホテルという構想で展開する分散型ホテル

「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」が2020年7月23日(木)にオープンしました。

「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」は全8棟11室で運営されており、歴史的価値の高い邸宅や、町家・古民家改築した客室棟に宿泊可能であり、大洲の美しい情景を感じることができます。



「画像提供:(株)KITA 撮影:北村徹」

部屋はエグゼクティブルーム、スタンダードルーム、カジュアルルームの3種類用意されており、いずれも檜風呂付きで開放的な空間を演出。

夕食は、瀬戸内海の海の幸、自然豊かな山の幸、肱川の川の幸が美しい砥部焼と共に楽しめます。

是非、「NIPPONIA HOTEL 大洲 城下町」に足をお運びください。

※大洲城に宿泊する「大洲城キャッスルステイ」も開催中。

全国初の木造天守に「宿泊」できる特別な体験ができますので、こちらも注目です！
(城泊は1日1組限定：通常年間30組予定・1泊100万円からです。)

宿泊に関するお問い合わせ、ご予約は運営事業者であるパリューマネジメント株式会社の予約サイトよりお願い致します。
(<https://www.vmg.co.jp/hotels/oozu/>)

やまぐちDMO は、体験型コンテンツ量産中！

一般社団法人山口県観光連盟
DMO推進部 末成 哲也



▶ モノ消費からコト消費へ

中国人を中心とする訪日観光客が、様々な商品を大量に買い込む様子から、“爆買い”という言葉が生まれましたが、山口県の観光振興において“爆買い”に対応する環境整備は非現実的で、都会の出来事であると感じざるを得ませんでした。

しかし、時の流れとともに、“モノ消費からコト消費”へ需要の転換が始まり、自然の豊かな地方においても、受入環境を整備するチャンスが芽生えてきました。

同時に、この“コト消費”は、訪日外国人のみならず、国内観光においても観るだけの観光では満足しないという、体験型観光への需要の変化を強く意識させられました。

このような状況に対応するため、やまぐちDMOでは2019年度に「観光プロダクト造成促進事業」を創設し、観光客向けの体験型コンテンツを造成しようとする民間事業者に補助金を交付することで、コト消費の需要に応える観光地域づくりを強力に支援することとしました。

▶ コロナ禍でも民間事業者さんは意欲的！

2020年度の事業実施においては、新型コロナウイルス感染症の拡大による民間事業者の経済事情が懸念されたので、補助率を1/2から3/4に引き上げ、体験型コンテンツの造成を加速的に推進し、アフターコロナに観光業がV字回復できるよう支援することとしました。

しかし、それでも、申請者は数少ないのではないかという不安は拭いきれず、この補助事業を必要とする民間事業者に情報を届けようと、職員で手分けをして積極的な営業活動を県内に限らず展開しました。

結果的には、3か月弱の募集期間の間に、約70件の問い合わせをいただき、地域内における民間事業者の体験型コンテンツ造成意欲の強さや隠れたポテンシャルに、とても大きな驚きを感じました。

▶ 次は体験の販売強化へ

現在、2020年度に採択した14件の体験型コンテンツがより魅力的に造成されるよう、アソビュー株式会社のカモ借りながら民間事業者を支援し、秋ごろまでに販売開始できるよう準備を進めています。

こうして造成された“体験”が、観光業として“儲かる”のだという認識が広がり、自然発生的に民間事業者の取組みが推進されることが、この事業の最終的な目標です。

そのためにも、やまぐちDMOとして、これらの“体験”をどう活用してどう売っていくのかが次なる課題であるとともに、その対応が民間事業者の強い観光コンテンツ造成意欲に応えることにも繋がると考えています。





せとうちDMOの日常

～ 広島大学からのインターン編～

せとうちDMONewsを読んでいただいている皆様こんにちは！まだまだ日中は夏の延長戦のように暑いですが、夕方になると、どこか懐かしい秋の匂いがしてきますね。

さて、せとうちDMOでは、この夏の終わりの頃にインターンとして、広島大学国際共創学科3年の藤井さんがやってきました(＾o＾)!! 藤井さんは大学で観光関係を勉強しており、この度インターン先としてせとうちDMOを希望されたそうです。嬉しいですね♪

2週間のインターン期間では、観光プロダクト開発やマーケティング業務、愛媛の事業者訪問や庄原の古民家視察をしました。



広島大学3年 藤井さん

こんにちは！藤井です。

出身は山口県下松市で、学科では観光分野を専攻しています。広島大学の総合科学部は、理系文系関係なく様々な分野の授業を勉強する学部で、私も様々な分野の授業をこれまでに履修しその中でも観光に興味を持ったので観光分野に所属することを決めました。これまでの経験はというと、昨年9月から今年の1月まで台湾に半年間交換留学をしていました。語学留学ではなかったのですが、中国語を習う授業も受けていました。この時は台湾の文化やジェンダーにも興味があったのでそれに関する授業を受けていました。

インバウンドや地域創生や街おこしに興味があり、せとうちDMOのインターンでしっかり学んでいきたいと思えます！



広報業務についてレクチャー中…私も勉強になります



県政記者クラブでのリリース投函も経験！



そごう広島店で開催中の島と暮らす催事にも参加



瀬戸内ブランド登録商品についても学び、審査会にも参加しました

せとうちDMOでは、これまで様々な大学からインターン生を受け入れてきました。私共も、常日頃仕事をしている中でどうしても頭が凝り固まってしまい、柔軟に考えられない時がありますが、インターン生との交流を通じて新たな視点を得ることができます。わずかな間ではありますが、せとうちDMOで学んだことが、それぞれが進む輝かしい未来への第一歩になるといいですね。

せとうちDMOでのインターンについて

インターン生 藤井（広島大学3年）

※これはインターン生の記事です。

広報というお仕事

インターン初日、せとうちDMOとはどのような組織であるかを教えていただいた後、せとうちDMOニュースを構成する(株)瀬戸内ブランドコーポレーション・事業本部長の山根さんに広報というお仕事について教わりました。私自身、大学で地域創生や町おこしに関する授業を履修していたこともあり、メディアの活用が現代にいかにか大切かをよく習っていたので、地域の良いところをどのように売り込むか、誰を対象にするか、どのような言葉で伝えるかなど、広報の仕事内容やその中での工夫はとても興味深かったです。

特に印象に残っているのは、せとうちDMOの特集ページを雑誌に載せてもらった際のエピソードで、私たちが普段何気なく目にしてる雑誌の数ページに、私たち読者が興味を持って読みたくなったり、記事を読まれた地域の皆さんが元気になったりするような努力が詰まっていると感じました。山根さんは広報という仕事に誇りを持っておられ、とても熱く語ってくださったのでこれから就職活動が控えている私にはとても輝いて見えましたし、山根さんから広報というお仕事についてお話が聞けてとても光栄だと感じました。

初日の本日はオリエンテーションが主でしたが、明日からは少しずつではありますが業務に参加させていただきますし、お手伝いさせていただくことも段々と増えてくので、これから2週間どんなに些細なことからも学んでいく姿勢で頑張っていきたいと思います。



瀬戸内ブランド登録審査

インターン2日目は、ブランド登録候補の商品を審査し、登録するかどうかを決める審査会のお手伝いをさせていただきました。その中で少しだけですが、登録候補となっている商品の詳細を審査をされる方々に説明をするお手伝いをさせていただきました。

個人的に、審査員の方々の候補商品への指摘が大変勉強になりました。瀬戸内ブランド登録商品として販売していくために、その商品のどのような点が魅力となるか、どう改善すればもっと消費者の皆さんに手に取ってもらえるようになるか、その商品の市場性は本当に高いのかなどを消費者・販売者・時には生産者の立場になって考え、また同じひとつの商品を様々な分野の知識から多角的に捉えられていて、様々な観点からものを見る力がより良い商品づくりに繋がっているのだろうと感じました。



【瀬戸内Finder】デジタルマーケティング

インターン3日目は、一日マーケティングチームでお世話になりました。マーケティングとはどのようなことをする仕事なのかを学び、せとうちDMOが運営しているサイト「瀬戸内Finder」について詳しく教えていただきました。さらに記事を書かれているフォトライターさんを統括する「ネイティブ」さんとの企画会議にも同席させていただきました。

特に私が印象に残っているのはネイティブさんとの会議で、数ある瀬戸内のコンテンツの中からどの県のコンテンツをどのくらい紹介するか、これから情報の需要が高まるのはどのコンテンツか、なぜ今このコンテンツを紹介するのかなど、瀬戸内の観光情報を発信していくサイトとして情報を厳選する過程を見させていただきました。会議を通して、私は瀬戸内の観光地や新しい取り組みについてまだまだ知らないことがたくさんあると気づかされましたし、せつかくの魅力ある瀬戸内の観光地の数々がまだ広く知られていないのはもったいないと感じました。

そして瀬戸内Finderがもっと多くの方に利用してもらうために、現在の瀬戸内Finderの問題点をユーザー目線から発見し改善策を私なりに考えインターン最終日に発表をするという宿題をいただきました。今後は、引き続き様々な部署の方々からせとうちDMOの活動・瀬戸内観光の課題をお聞きし、瀬戸内Finderがどうすればより良いサイトになるかを考えていきたいと思っています。